【成果報告】

本研究は、2024 年に国内外の小学生から高校生を対象とした SDGs につながるプロジェクトをベースにオンラインで国際協働学習を推進する「International Education and Resource Network（iEARN)」に、ファシリテーターとして参加した大学生のファシリテーション能力の向上とグローバルリーダーシップ能力の育成について調査した。

iEARN は、140 カ国以上、3 万以上の教育機関・団体と提携する NGO で、オンラインネットワークを通じて、異文化交流やコラボレーションを行う学習者のグローバルコミュニティを運営している。国内では NPO 法人 JEARN が、iEARN の日本センターとして活動しており、2017 年に日本の教育事情に合わせた JEARN 独自の大学生向け地球市民育成プロジェクト「JEARN Youth Project」を開始した。このプロジェクトは、国内外の小中高生を対象とした国際協働学習のプロジェクトにおいて、大学生がファシリテーターとして活動する体験を通じて、地球市民を育成することを目的としている。

本研究では、①実践経験を通して、どのように、ファシリテーション能力を成長させるのか、②グローバルリーダーシップ能力の向上に必要な経験は何か、を明らかにするために調査を行った。調査対象者は、「「ゴミ問題」と「平和教育」に取り組むプロジェクトのファシリテーターとして、国内外の生徒に向けてワークショップを実施した A 大学の学生である。調査方法は、アンケート調査と観察調査である。アンケート調査は、大学生ファシリテーターと交流した学校の先生に対して行い、観察調査は、大学生ファシリテーターのワークショップの様子を、調査者の主観を加えずに、正確に描写・分析した。

調査の結果、大学生は国内外の生徒のファシリテーターとして活動することで、企画力・ICT 能力・言語能力を高め、生徒の主体的な学びの促進を意識していくことが明らかになった。また、異なる国の生徒と関わり、不確実性の高い状況を経験することで、臨機応変な対応力を身につけていた。さらには、世界共通の問題に、グローバルな視点から取り組むことにより、異文化理解力を高めていることもわかった。

本研究は、iEARN を通じた国際協働学習のファシリテーターとしての経験が、大学生のファシリテーション能力とグローバルリーダーシップ能力の向上に寄与することを示した。これらの能力は、地球市民としての意識を高め、グローバルな視点から問題解決に取り組むための重要な要素である。



